

## 第7回新居浜市レジ袋削減推進協議会議事録

1 開催日時 平成23年 2月23日(水) 14:00～15:45

2 開催場所 新居浜市役所本庁舎5階大会議室

3 出席者

(新居浜市) 会長 環境部長

事務局 環境部総括次長、ごみ減量課長

ごみ減量課(2名)

(スーパー) コープえひめ、イオンリテール(株)

(株)フジ、マックスバリュ西日本(株)

(株)マルナカ

(市民団体等) にいはま環境市民会議、にいはま消費者友の会  
グループさつき生活学校

4 欠席者

(スーパー) (株)木村チェーン、(株)ママイ、(株)マルヨシセンター

(ドラッグストア) レディ薬局(株)、(株)大屋マック

(ホームセンター) ダイキ(株)

5 報道関係

2社(愛媛新聞、ハートネットワーク)

6 内 容

(事務局)

みなさんこんにちは、定刻が参りましたので、ただ今から第7回新居浜市レジ袋削減推進協議会を開催いたします。

まず初めに、本日の出席状況ですが、欠席の連絡をいただいておりますのが、木村チェーン、ママイ、マルヨシセンター、マック、レディ薬局、ダイキ、新居浜商工会議所、新居浜市女性連合協議会様からは「都合により欠席」との連絡を受けております。

それから、本協議会は公開を原則に開催いたしております。

それでは、以下議事は会長にお願いします。

(会長)

みなさんこんにちは。環境部曾我です。

本日は大変お忙しい中、多数ご出席頂き誠にありがとうございます。日頃よりレジ袋

削減、ごみの減量、ひいては地球温暖化対策に取り組んでいただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。

前回10月12日に開催いたしました協議会では、レジ袋削減キャンペーンの継続実施が必要であるということでご意見が一致したと思います。また、その実施時期や時間帯についてのご意見も頂きました。それからレジ袋削減のPR方法や条例化につきましても市の考えをご説明させていただきました。

本日は、会次第にお示ししております、平成23年度のレジ袋削減活動、条例化についての検討状況を皆さまにお示ししてご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。それと、机の上に置いておりますカード型のカレンダーは新居浜市地球高温暖化対策地域協議会で作成したもので、総会を1月に開催いたしまして、3つの活動目標を掲げております。この中にも「レジ袋の削減推進」が掲げられておりまして、その内容を確認いたしましたところでございます。これからもこの方向で我々も努力してまいりたいと思っておりますので、またよろしくお願いいたします。

それでは会次第の1番目、平成23年度のレジ袋削減活動について事務局からご説明させていただきます。

#### 【事務局説明「平成23年度のレジ袋削減活動について」】

(会長)

スケジュールなんですけれども、先ほど説明させていただいた環境自治体会議、これは全国から自治体や環境団体にお集まりいただいて環境政策のステップアップを目的に開催しているものでございます。5月25日から27日の3日間開催されます。6月は市議会が開催されますのでタイトなスケジュールとなっておりますが、お示したスケジュール案と活動内容につきまして何かご意見はございますでしょうか。

(環境市民会議)

意見ではないのですが、この自治体会議に参加する団体やグループはどのくらいの数になるのでしょうか。

(事務局)

4月にご案内を送付させていただくことになっておりますので、今の時点ではまだ判りません。

(コープえひめ)

店頭キャンペーンの方は各店舗1回1時間と言うことでこの期間内で調整させていただくということよろしいですか。

(事務局)

4月の下旬頃までに、ご希望のスケジュールやのぼり、ポスター等の希望枚数をお伺いいたしますので、その内容を調整させていただいて実施したいと考えております。

(コープえひめ)

家庭ごみの排出状況調査というのは、これはどういう方法で実施されるのですか。

(事務局)

詳細を決めている訳ではございませんが、他の自治体で実施しているものも参考にしながら、市内で場所を決めて1か月間抜き取って中を調査することを考えております。

(会長)

自治会の同意も必要であると考えておりますので、ステーションへ出されたごみをランダムに抜き取って調査させていただくことを考えておりました、その辺りを今後詰めて行きたいと思っております。

(環境市民会議)

のぼりをドラッグストアやコンビニへ設置したいとのことですが、これは10月の3R月間にそれらの事業者さんを集めてご説明されるのですか。

(事務局)

事前に各事業者さんへこちらからお願いをして、設置して下さる事業者さんへお持ちする方法で考えております。

(環境市民会議)

家庭ごみの排出状況調査は毎年1回はやっているのですよ。

(事務局)

市で実施しているのは、清掃センターの焼却ピットの中に投入されたごみを年4回定期的に調査しておりますが、ごみステーションからの直接の調査は、ビン・缶については、以前にステーションごとの排出量の調査を実施したことがあります、それ以外にはございません。プラスチックごみが全体でこれだけ減りました。ということは判るのですが、その中にレジ袋がどのくらいの割合で捨てられているのか。というようなことについて調査したいと考えております。

(会長)

続きまして、レジ袋無料配布中止店頭キャンペーンでの配布物等について事務局からご説明いたします。

(事務局)

【事務局説明「レジ袋無料配布中止キャンペーン」で使用する、チラシ、のぼり、ポケットティッシュ等について】

(コープえひめ)

ティッシュの中へ折り込みを入れるのはいいと思うのですが、字が小さくなると見づらく思います。そうなるとかえって読まれない可能性もあると思いますので、情報量を少なくして字を大きくわかりやすくした方がいいと思います。

(環境市民会議)

私も賛成です。びっしり書いているとなかなか読んでもらえないと思います。もっと簡略にした方がいいと思います。

(会長)

情報量が多すぎると何を書いているのかわからなくなる。ということですが、ポケットティッシュの中へチラシ（ハガキ大）を折り込むことについては良い。ということですので、文字数を少なくして大きな字で作成したいと思います。

(イオン)

チラシとティッシュを別に作らなくてもティッシュの中へ折り込むことで良いと思いますし、店頭活動をする場合も両側にのぼりを立ててチラシの入ったティッシュを配布することで呼び掛けて行けば、お客さまに分かっていただけれると思います。

(フジ)

チラシが捨てられる可能性が高いのであればこのようなやり方も仕方ないと思いますが、ティッシュの中へ折りたたんだチラシを入れても実際は中を開けて出してくれたりほしないとしますので、出さなくても見える面が命だと思います。このような方法をとるとしても、お客さまに何を告知したいのか。ということイメージして作成する必要があります。また、店頭キャンペーンのときはティッシュだけだと、ただのティッシュ配りになってしまう可能性があるのもその辺りが難しいところだと思います。

(マックスバリュ西日本)

ティッシュとチラシを別々に配るよりは中に入れた方がスマートだとは思いますが。中のチラシを開いてもらえるように、興味をそそるようなものが表にあって「見てみようかな」と思わせるような内容がいいと思います。どれだけ効果があったかクイズ形式にするとか、みんなが読みたくなるような感じであれば開いてもらえる可能性はあると思います。

(環境市民会議)

今月の市政だよりに高温化の記事が折り込まれていましたが、費用はどのくらいかかるのでしょうか。チラシを作る費用と比べてどうなのでしょう。費用対効果の問題なのですが。

(事務局)

市政だよりに折り込む方が掛かります。もちろん、市政だよりへはキャンペーンの内容等を掲載します。2面程度掲載する予定です。

(環境市民会議)

少しパンチに欠ける。

(環境市民会議)

私はA4のチラシ案の内容も良くわかるし、ティッシュに折り込む方も、主婦の方などは開けるとおもいますよ。両方作るのはどうですか。

(事務局)

両方作るのは予算的に厳しいです。

(マックスバリュ西日本)

ティッシュに入れるのはいいと思います。内容の方で、市民の皆さんのご協力で成果が上がっているのですから、市民の皆さんに参加いただいてこのようになりました。ということも前面に出すべきだと思います。87%の方がマイバックを持ってお買い物に来て下さっている訳ですから。その方たちの参加、ご協力によって成果が上がっているということをもっとアピールすれば良いと思います。また、あまり堅い文書でない方がいいと思います。

(会長)

啓発用のティッシュとチラシを別にするか、ティッシュの中に小さいチラシを折り込

むか、どちらかに決めたいと思います。

(フジ)

チラシを作った場合はティッシュの中には何も入らないということですか。

(事務局)

1枚だけ入ります。今の案にある1面だけ入るイメージです。今までは、取り出しできない形で、ティッシュの一番底に入っていました。

(環境市民会議)

このチラシの目的は、過去の実績を啓発するのか、未来の展望を示すのか、確かにマイバッグ等持参率が87%というのは目的を達成している訳で、もっと多くの方に協力してほしいとか、市民が自主的に買い物袋を断るとか、そういう方向へ持って行きたい訳ですよ。

(事務局)

協力して下さっている方と、もう一方協力してほしい人、両方への呼び掛けということですよ。

(環境市民会議)

主婦的に考えると、ティッシュの中にチラシを折り込む方がいいです。あまりごちゃごちゃ書かないで作るといいのではないのでしょうか。ポスターは作成してお店へ貼るのですよね。それならば、ティッシュにチラシを折り込む方がいいですね。文言をもう少しソフトに未来展望できるように、過去形ばかりではなく考えていただけたら。

**【賛同多数によりティッシュにチラシを折り込んで配布することに決定】**

(会長)

それでは、チラシをティッシュの中へ折り込む形で作成したいと思います。本日いただいたご意見によりデザイン等を修正しご連絡させていただきます。

のぼりにつきましては、無料配布中止を実施していただいているお店へ設置するものと、それ以外のドラッグストア、コンビニなど、のぼりの設置にご協力いただけるお店に設置いただくものとデザインを分けております。協定いただけないお店へののぼりの設置についてはどうでしょうか。

(マルナカ)

検討させていただきます。

**【のぼりのデザインについて案の内容で作成することに決定】**

(会長)

そうしましたら、のぼりの設置につきましてはこちらからお願いをして、承諾を得た店舗へ設置させていただくということで進めさせていただきたいと思います。設置のお願いをする店舗は、無料配布中止の協定に参加いただいていない業種の事業者さんへお願いすることとなります。こういった業種へお願いするかということにつきましては、市の方では、コンビニさん、ドラッグストアさん、ホームセンターさん、協定に参加されていないマルナカ、マルヨシさん、JAさん等へ市の方から設置のお願いをすることを考えておりますが、そのことにつきまして何かご意見はございませんでしょうか。

**【特に意見なし】**

(会長)

それでは、特にご意見が無いようですので市の方から先ほど申し上げた事業者さんへのぼりの設置をお願いするというので進めさせていただきます。

それでは、平成23年度のキャンペーンで配布するティッシュにつきましては、チラシを折り込んで入れる。のぼり、ポスター（A2サイズ縦）のデザインにつきましても説明させていただいた内容で進めさせていただきたいと思います。

(会長)

続きまして「レジ袋削減条例」について事務局からご説明いたします。

(事務局)

**【事務局説明「レジ袋削減条例について」】**

(会長)

レジ袋削減条例につきましては、全国の事例も少なくどれほどの効果があるのかという検証にまでは至っていない段階ではないかと思っております。今後は、レジ袋削減推進という目標にどれほどの効果があるのか等、もう少し調査研究する必要があると考えております。事業者の皆さん、市民の皆さんの支持がなければならぬと考えておりますので、その辺りも踏まえまして今後も検討を続けてまいりたいと考えております。前回もレジ袋削減の条例化についてご説明させていただいたのですが、事業者さんの方で何かご意

見がございましたらお聞かせ願えたらと思うのですが。

(コープえひめ)

対象事業所ということで、マイバッグ等持参率60%以上というのは、既に協定を締結しているところは持参率を達成しているので対象外ということになるのでしょうか。

(事務局)

そうです。達成していない事業所に対して達成するために計画を出してもらって、その通りにできているかどうか、出来ていなければ「もっと努力して下さい。」ということ条の規定を根拠に市が指導できるというような主旨です。

(イオン)

新たな取り組みというのは特に行っておりませんが、レジ袋の辞退率が当社の方は低く81%弱なので、他の事業者様とちょっと差がついているのでそこを何とか埋めて行きたいと考えておりますが、特にこれといって取り組みがなされていないのが現状となっております。年末年始等は市外からのお客さまが増えて辞退率が下がるという状況もあり、普段の日を何とか上げる方法を考えているのですが苦慮しているところです。

(会長)

条例化の中で、事例等何かございませんでしょうか。

(イオン)

市や他の事業者さんの考え方をお伺いしながら検討させていただけたらと思います。

(フジ)

条例制定状況をみると、私どもは協定を締結しているので今まで通り報告を出せばいいと思うのですが。

(事務局)

そうなります。

(フジ)

協定の分の報告、条例の報告、兼ねて出来るようにしていただければありがたいのですが。例えば省エネルギー関係の報告は、国、県、市とそれぞれの様式に同じ数字を記入して報告しなければならないので、そのようなことにならないように考えてほしいと思います。レジ袋の有料化を強制するような条例は作れないということなので、レジ袋

削減取り組み状況の報告、計画を出すということであればある程度枠を広げて行った方がいいのではないかと思います。ただ、小規模事業者さんがその報告ができるのか。コンビニエンスストアさんはフランチャイズのチェーン本部が関わってくれるのであれば良いと思いますが、個店ごとに報告、計画を作成しなければならないとなると、なかなか難しいと思います。コンビニさん等は夫婦で経営されているようなところもあるので、計画とか報告と言われてもなかなか難しい面があるのではないかと思います。そういう面を踏まえると3番目（1,000㎡以上の店舗を有する事業者）になるのですが、範囲を広げたいけれど広げると個々の事業者さんで事務作業が難しいところも出てくると思います。

(会長)

その辺りの問題点は考えて行かなければならないと思います。

(マックスバリュ西日本)

レジ袋の削減が市民の方の環境に対する考え方と言いますか、変革のきっかけになればということで、各地でこのように話し合いをさせていただいて協定を結んでやらせていただいているのですが、実際レジ袋が減ればすべて解消されるのかと言えば、そうではない。という問題をひとつ抱えていると思います。一番目指すべきところはより多くの事業者さんが同じような取り組みを実施して下さることだと思います。今の新居浜市の取り組みはできる範囲で精一杯やったださっていると思いますが、例えば山口県はほとんどの食品業者が参加をしており、その後多くのドラッグストア、クリーニング店など、裾野を広げてどんどん取り組みに参加しています。条例を作ればそれなりの拘束力はあると思いますが、無料配布中止を強制することはできませんので報告の提出など、市とのやり取りが増えるだけで実際に効果を成さないのであれば条例を作る意味はないのかなと思います。ひとつキーポイントになるのは辞退率の目標設定の在り方で、60%というラインに設定されると、弊社の162店舗中101店舗で無料配布中止を実施しているのですが、残りのお店では協力いただいたお客さまに2円値引きするやり方でレジ袋の削減を行っております。地域や条件によって異なりますが、そのやり方でも時間を掛ければ60%までは上がりそうな状況となっています。そうすると無料配布中止しなくてもいいじゃないか。となってしまう。市民の皆さんも巻き込んだ上で、市がリーダーシップを持って条例を作りますとなったときに、80%の目標を掲げて「無料配布中止をしなければ達成できない数字ですよ。」というような形で条例を作ることができなければ、条例は形上作って結果が付いてこない、という懸念があるということを感じています。色んな問題があると思いますが、より多くの事業者が本気になって減らすという方向に持って行かなければならないと考えておりますので、全国でも取り組みの少ない条例という取り組みを導入するのであれば、もう少し目標設定のラインの見極め

をする必要があると感じております。

(会長)

レジ袋無料配布中止協定において設定した、マイバッグ等持参率80%という目標に向かって今後も取り組んで行くということが必要だろうとは感じておりますので、おっしゃる効果というものをきちっと見極めたうえで、条例の制定を考えて行きたいと思えます。

(マルナカ)

私どもにつきましては、レジ袋の辞退率がまだまだ10%位ですけれども、昨年につきましては取り組めるものから実施するというので、不要なレジ袋をもう一度持ってきていただいてレジ袋としてリサイクルする取り組みを実施しておりますので、地球温暖化の防止に向けて皆さんと同じような取り組みを実施して行きたいと思えます。また検討します。

(環境市民会議)

レジ袋の削減活動については、新居浜市が取り組み始めたころは全国的にニュースにもなったと思うのですが、最近あまり聞かなくなったのですけれども全国的に何がどのようになっているのか情報はないですか。流れとして波があるのかなと感じています。全国的に取り組みが広がって行くのかどうか。

(会長)

環境省が毎年10月を3R推進月間として「環境にやさしい買い物キャンペーン」等、マイバッグの持参を呼び掛ける取り組みは毎年行われております。また、ホームページ等を観ますと今年度も全部で51社45,370店舗がキャンペーンに参加しておりますので、継続はされております。個々の効果がどうだったのか、というものをもっと公開して、ただキャンペーンをやっているというのではなくて、その辺りを見えるようにすればもっと市民の方も関わって行けるのではないかと感じております。

(環境市民会議)

環境省の方で、全国で新居浜市のように取り組んでいる団体のデータを出しているのですか。

(事務局)

今のところ、平成20年の4月頃に環境省が行った「レジ袋削減の取り組みに関するアンケート」の結果しか環境省のホームページに載ってないです。それ以降、環境省の方で全国的な調査は行ってないのではないかと思います。

(フジ)

全国的に事業展開されている事業者さんの方が、その辺りの情報をお持ちではないでしょうか。

(マックスバリュ西日本)

全国の取り組みでは、確か京都辺りが一番早くて、それをモデルにして各地で話し合いが進んで取り組むところはどんどんやって行った訳なんですけれど、今現在マックスバリュ西日本で関わっている地域でいうと、兵庫県から西側になるのですが取り組みが進んでいない所は市民の方が反対しているところもあります。それは「ごみ袋として使えるのに」とか「家の中でごみの仕分けに有効活用している」ということです。もちろんレジ袋を削減するとなると、それに代わる何かを使わないといけなかったりする事情もあるかもしれないのですけれど、そういう事例と、事業者さんの足並みが揃わない。この部分で、はっきり言っていくら話し合いをしてもそれ以上踏み込めない。話し合いは2、3年前から同じようなペースで実施していたのですが合意形成できない。協議会も解散してしまったり、「年に1回どうですか。」という提案があったりしただけで何の進展もなく終わる。というところもたくさんありますので、全国的に「やろう」という気持ちを持った人がいてやれる環境のところは取り合えずひと通り進んだ。という風に、私どもが展開している地域だけ見ればそのように感じております。今話し合いをして目処が立ちそうなところは少なく、今までのようにはなかなか進まないと感じております。近畿ではほとんどありません。兵庫県では姫路市の周りは、事業者さんも割と「協力しましょう」というところが多くて進んだのですけれど、東側、神戸市とか西宮市とか、事業者も消費者の方も多い地域で全然進んでおりません。大阪はイオンリテールさんがございますけれど、聞いたところによると話し合いをしても全然まとまる気配がないと聞いておまして、今からどんどん進んで行くというのは難しいのではないのでしょうか。

(フジ)

西日本で山口県のようなところは稀ですね。最初は反対されているところもあったのですがほとんどすべての事業者が参加されて、ふたを開けてみれば協議会に参加していなかった事業者まで協定に参加していたり、元々私どもの店舗でも有料化する前からマイバッグの持参率が40%から50%があった地域なので、県民の方の意識が高いのと

「お金を払うのは嫌だ」という二つの要素が重なったからではないかと思うのですが、山口県が強力なリーダーシップをとって実施しておりますので、市が協力する、民間企業も協力するという流れができて、県全体がそうになってきた。愛媛県の場合は、県が声を掛けたりはしているようですが、松山市の方がなかなか進まないの、神戸市等と同じで人口がある程度多いと色々な意見の方がおられるので、事業者からも色々な意見が出てくるということがあって進んでいないようです。

(環境市民会議)

県で取りまとめるというのは、どのようなやり方をしているのでしょうか。

(事務局)

富山とか県単位で協定を締結しているところはあります。

(環境市民会議)

これは難攻不落ですね。この辺りで言えば、西条市、四国中央市辺りへ広げて行って、ということになるのですが。

(会長)

なかなか足並みを揃えて行くのは難しいですね。

(環境市民会議)

聞いてみて、条例化は良いことだと簡単に思ったのですが、ちょっとこれはそう簡単には行かないなと感じております。結局、全国でも1区4市だけでしょ。今大変厳しい時ですから、先ず持参率を高めることを一番に進めて行って、その内時代も動いて行くと思うので。

(フジ)

持参率も実際80%を超えていますので、いくら働きかけても「私はレジ袋はいるから買う。」と言われる方も多いので、「非常に利便性が高くごみ袋としても使えるから買っている。少ない人数に丁度良いし大きいごみ袋を買う必要もない。」と言われる方も多数おられるので、「レジ袋が使えなくなると逆に困る。」という感じで買われている方もおられます。また、「30円になったら別だけれど、5円だったら別にかまわない。」という方もおられます。

(環境市民会議)

私もコープへ行くのですが、「ごみ袋にいるから2枚ちょうだい。」と言われているお

客さんもおられます。これに対しては何とも言えませんし、高齢の方が大きなごみ袋に1週間もごみを溜めて重たい袋を出す訳にもいきませんし、もう少し現場を見て皆さんの納得を得なければ、ただ単純に良いからということではだめだと思います。

(消費者友の会)

お店あつての私たちですので、以前はトレイの重さがどうだ、とか言っている時代もあったのですが、今は袋に入れて下さったり、かご盛りがあつたり、店頭での陳列の仕方も、それについて文句をつけるところがあまり無いような状態ですし、なるべく良い状態でお店の方にも働いていただきたいので、無理に買い物袋持参等の運動をもっと積極的にするという気にはあまりなってないのですけれど、少し申し訳ないのですが。ですから、どちらも無理のない程度に実施できれば、という気持ちが一番強いです。

(グループさつき)

私はコンビニとかドラッグストア等は、なかなかこの活動に入って下さらないのではないかと感じておりましたが、最近コンビニでものを買いますと「お箸いりますか。」とか、こちらがいるかいないか聞いてくれるようになっていて、一步前進したのではないかと感じています。それまでは「いる、いない」を訪ねることもなくレジ袋や割り箸をくれたので、するとこちらも「いない」と思っても出してくれたらそのまま持って帰っておりました。最近、本当にちょっとしたことなのですが企業の方も含めて全体的に意識が高まってきているのではないかと、うれしく感じております。それから、先日イオンで「黄色いレシートの日」に私は初めて参加したのですが、見ていましたら本当に男の方も皆さんマイバッグを持って買い物をされておりました。やっぱりその気持ちになればそんなに大変なことではなく、本当に誰でも習慣付いたらできるのではないかと実感いたしました。ですから意識を高めていく努力は続けて行かなければならないと思います。私はマルヨシが近いのでよく利用するのですが、マイバッグを持たれている方は本当に少ないし、買い物をすればたくさんレジ袋を下さいます。欲しい人はお金を出して買って、みんながレジ袋をもらわないということを理解しあいながら、目的は地球温暖化を防ぐということと、ごみを減らすということなのでできるだけ続けて行ったら良いのではないかと思います。意識は高まってきているのではないかと希望を持っております。

(会長)

消費者の本当のご意見だったのではないかと思います。意識付けと言いますか事業者さんにも色んな形でお願いもしていきたいと思います。続きまして、先日広島市へ行政視察に行つてまいりましたので、その内容をご報告させていただきます。

(事務局)

【事務局説明「広島市のレジ袋削減に関する取り組みについて」】

(フジ)

広島市の場合は、「ごみ減量デー」と変更してから毎月1日に始めた訳ではなくて、ずっと以前から1日に行っていた内容を変更したということですよ。

(事務局)

そうです。

(フジ)

「レジ袋を削減しましょう」ということで活動していたものを、レジ袋の有料を機にキャンペーンの性格を少し変更して、継続して市民に毎月アピールをして行く日にしましょうということですね。事業者は場所を提供して、消費者団体、市職員の方にアンケートを取っていただいたり、抽選会をしていただいたりしており、事業者としても参加しやすい形になっています。広島市でのレジ袋削減に関する協議会自体は、取り組みの当初は2か月に1回くらい実施していたのですが、今は年に1回か2回程度になっており毎月1日のキャンペーン活動が中心になっているようです。

(環境市民会議)

広島市は以前から「ポイ捨て禁止」で何か厳しい条例を作っていませんでしたか。

(事務局)

平和公園の関係もあると思いますが、路上喫煙、ポイ捨て、落書き禁止が確かあったと思います。

(環境市民会議)

やっぱり環境に関しては長い歴史があるのでしょうか。結局は我々市民が賢くならないと地につかないということですね。

(会長)

レジ袋削減とごみの減量を結びつけて、これからの活動をどのように転換して行くかということ行政も勉強してまいりますので、皆さんのお力添えをいただいで進めてまいりますと思います。本日の内容は以上になりますが、何かご意見はございませんでしょうか。また、本日はマルナカの店長さんにご出席いただいたのですが、マルナカさんとマルヨシセンターさんへは平成22年度に本社の方へお伺いしたいと考えておったの

ですが、マルナカさんは、愛媛事業部で事業部長さんにお会いし、マルヨシセンターは人事総務部長さんが来庁下さり、その中で色々お話もさせていただきましたので経過をご報告させていただきます。マルナカさんにつきましては会社の方針ということで独自のレジ袋削減の取り組みをしているので、今後もそのような方向で環境に配慮した活動をしていきたい。ということでございました。マルヨシセンターさんにつきましては、レジ袋削減等の社会的な流れは認識しているが「一企業が強制的にレジ袋の代金をいただく。」ということ協定により決めるということは会社としてできない。というご見解で、「申し訳ないのですが、今の時点ではそのような活動に参加することはできない。」とのご回答でございました。現在の状況といたしましては、レジ袋の無料配布中止に参加いただくことはなかなか厳しい状況ではございました。ただ、市といたしましてもこういった取り組みにつきましては、環境自治体会議も5月に開催いたしますし、新居浜市地球高温化対策地域協議会も発足いたしまして、こういった取り組みを推進しておりますので、今後も引き続き参加要請をお願いして行きたいと考えております。

これで第7回新居浜市レジ袋削減推進協議会を閉会したいと思います。お忙しい中、長時間にわたりご協議いただきありがとうございます。